

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田喜代史
淡河恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。本号の特集は「内用療法（核医学治療）」に関するものです。最近の腫瘍核医学は面白い話題が満載で、今回特集されている核医学治療や theranostics が特に注目されています。核医学治療は全身療法でありながら腫瘍特異的な治療法です。分子標的薬の抗がん剤も含めて最近のがん治療はこの方向を向いていますが、病変に特異的に集積する薬剤を投与し、そこから放出される放射線で殺腫瘍効果を発揮し、画像を撮像することで診断と治療の双方が可能であるというユニークさは核医学治療のみです。特集内でも話題になっていますが、PSMA による前立腺癌の診断・治療、DOT-ATOC/DOTATATE を用いた神経内分泌腫瘍の診断・治療が特に注目され、Ga-68 で標識した PET 核種で診断し、同じ化合物をβ線放出核種である Lu-177 で標識した薬剤で治療を行います。Ga-68 はジェネレータから得られるため、薬剤のデリバリーの観点からも有望です。

▶それでは腫瘍特異的に集積する薬剤がもっぱら注目されているかということでもありません。非特異的な腫瘍イメージング剤としては“20 世紀で最高傑作のトレーサ”といわれる FDG が中心になりますが、ポスト FDG とされる非特異的な腫瘍イメージング剤もいくつか話題になっています。今回の特集からは離れますが、なかでも注目されているのが Ga-68-FAPI です。FAPI は fibroblast activation protein inhibitor の略で、がん関連線維芽細胞で発現される線維芽細胞活性化蛋白質（FAP）をターゲットとするイメージング剤です。FDG と同様に様々ながん腫の原発巣や転移病変に集積し、FDG よりも明瞭な画像が得られるともいわれています。FAPI を Lu-177 で標識して治療に使用できるかは不明ですが、少なくとも診断の面では大いに期待できます。

▶このように話題豊富な腫瘍核医学からのタイムリーな特集ですので、ぜひ一読ください。すでに日本での治験が行われているものもあり、数年後には日常臨床で使用できるようになるかもしれません。

橋本 順

「臨床放射線」第 65 巻 第 9 号

2020 年 8 月 10 日発行（毎月 10 日発行）

定価（本体 2,600 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 39,700 円＋税）

[年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。